

令和5年4月3日

下期に突入しましたが、先月は公私ともに気忙しい日々が続きました。まあ3月だからイベントや出来事は多くなるわけなのですが、ストレスも溜まる中で、WBCには救われました。ストレス解消にもなるし、気持ちが前向きにもなるし。WBCが終わった後も、準決勝・決勝の録画を毎日繰り返し観てました。実は今もそんな状態です。

2022年がいろんな事があり過ぎて、インパクトが強いだけに、2023年は中身が薄い年なんだろうなあと感じていましたが、失礼しました。WBCがあったんですね。これで2023年は「WBCで世界一になった」という記憶に残る年となりました。

記憶に残るといふのと記憶に残らない（つまり忘れる）といふのとでは境界線を引くとしたらどこがポイントになるのでしょうか。ポイントはいろいろ考えられるとは思いますが、私が挙げるポイントは、「自分事にできたかどうか」ということです。自分事にできた出来事は記憶に残りやすく、世界のどこかで起きた出来事も「何か起きてるなあ」くらいの他人事で捉えていれば記憶には残りにくいのではないかと思います。

ここで、当社の「環境経営方針」が記憶に残っている人はどれだけおられるでしょうか。この環境経営方針は、2021年7月9日に制定されたもので、当時は全社配信をして、現在もあのように掲示板に貼っております。当時、エコアクション21という環境認証取得へ進み始めたところでした。

この環境経営方針が記憶にない人は、環境問題についてどこか他人事になっていたんだろうと思います。逆にしっかりと記憶に残っている人はちゃんと自分事に捉えていたんだろうと思います。

さて、今般、エコアクション21の申請を致しました。これから審査が入って合格すれば認証取得となります。環境経営方針が記憶になかった人も、今まで他人事になってしまっていたことは別にいいとしても、これからは自分事に捉えて、自分が所属する課がどれだけ二酸化炭素を排出しているのか等を把握して、環境の課題に取り組んでいきましょう。

以上

代表取締役社長 角高哲治